



目標は世界のオペラの舞台 自分の生の声が客席に直接届く 歌を通じて多くの人に感動を与えたい

寺田功治さん(第57回全日本学生音楽コンクール全国大会音楽部門大学一般の部1位)

「5月に開催される小沢征爾^{せいじ}音楽塾で、控えの役ながら6人のソリストの一人に選ばれました。あの小沢征爾さんの指揮でオーケストラをバックにオペラが歌える、こんなにうれしいことはありません」

「母いわく、『しゃべるより先に歌い始めた赤ちゃん』だったそうです。小さいころからいつも童謡を歌っていたし、小学校の音楽の成績は別として、歌のテストはよかったんです」と照れくさそうに笑う。柏原在住の寺田功治さん。11月に開催された全日本学生音楽コンクール全国大会の音楽部門で、これまでの最年少記録で見事1位に輝いた、東京音楽大学に通う20歳の青年です。

「高校でレッスンを受けて自分の歌に自信を持つことができましたが、全日本学生音楽コンクールの東京大会では結果が残せず、全国大会に出られなかったんです。このときは、とてもがっかりしました。しかし、上位の人の歌を聴いて『心を込めて美しく歌う』ことが足りなかったし、『うめぼれ』はいけないということに気づきました」と話します。それからは初心に帰って発声練習と人の歌を聞くことに専念しました。『いい歌を聴くことが勉強になります。CDを聞くこと、そして息づかいまで見られる生の歌を聞くことが大切です。上手な人の歌をたくさん聞き、そこから学ぶことができたから、自分でも上達で



きたと思っています」という寺田さん。まさにその、歌への真摯な姿勢が、今回の1位という成績に結びついたので。一方、一人でも多くの人に歌の素晴らしさを知ってもらいたいと、高校生のときから病院や小・中学校でボランティアの演奏活動も続けています。病院で元気をもらったと喜ばれたり、学校で子ども達が童謡と一緒に歌ってくれると励みになります」と話します。また、機会があれば、狭山でも歌いたいとのこと。そのお話にもうかがえるように、寺田さんの目標は、ステージと客席が一体となる素晴らしさを多くの人が感じられるようなプロのオペラ歌手になって世界で歌うことです。『イタリア・オペラの特徴は、劇的であること。また、高い音域を聴かせることです。それは自分に向けていると思います。プロへの道は険しいけれど、会場全体を共鳴させ、歌い終えた瞬間に拍手が沸き起こり、客席から心を込めて『ブラボー』と言われるような歌手を目指します」とその夢を話してくれました。

ものづくり
狭山人づくりの産業



鮮やかなものから落ちついたものまで、シクラメンの花の色はさまざまです

榎 本浩さんは、就農して13年め。北入曾の鉢花栽培農家です。日々草やパンジーなどの小さな鉢花も育てますが、栽培の中心はシクラメンです。丹精込めて育てた花をお客様に見てもらい、生の声を聞こうと、直売でスタートしました。12月に最盛期を迎える花の種をまくのは前年の11月、「1年かけて育てる中でも夏場の水やりが一番大切で、1鉢ずつ様子を見ながら必ず自分でやるんです」と、シクラメンに対する細やかな心遣いがうかがえます。そして花が咲き始める10月ごろ、1枚ずつ葉を整える「葉組み」をして鉢の形を整えます。花は正直だから、手を掛けただけ良い結果が出るし、その花をお客様に喜んでいただければ励みにもなると、良い花を咲かせるために、努力と時間を惜しまない榎本さん。250坪のビニールハウスに数千鉢が咲き誇る中で、いつかは自分で新しい品種を咲かせたいと目標を持ち、勉強を続ける毎日です。

(榎本浩さん / 北入曾・鉢花栽培農家)

くわがまち
自治会

柏原地区第四区自治会

皆様、明けましておめでとござい
 ます。智光山公園の花と緑を背景とし
 た、柏原地区の一翼を担う自治会です。
 昨年はイベントの「ユニバ盆踊り大会」
 の開催に赤信号がとまりました。高齢
 化と時代の経緯から来る衰退などが原
 因です。しかし、役員の方々の「絶対成功させ
 る」という一念と熱意が周囲に伝わり、
 大勢の皆さんの支えを受け、さらに子ども達の絶大な協力に
 助けられ、無事成功させることができました。
 このことで、自分たちの住んでいるまちを愛する気持ちに
 感謝し、それを実行に移すのは、社会の問題ではなく個人の
 問題なのだということを感じました。



みんなの協力で無事成功しました

Hello ハロー
仲間たち

Vol. 269

スキーマイツだるま



昨年主催したスキー教室には大勢の方が参加してくれました

私たちスキーマイツだるま
 は、結成してまだ2年めの若い
 サークルです。これまで教
 育委員会や公民館のスキー教
 室などに参加していたメンバ
 ーを中心に、中高年のサーク
 ルを作ろうと声を掛けあい、
 23名が集まりました。会の名
 前も、転んでも転んでも起き
 上がる「だるま」にあやかっ
 たもので、七転び八起きで滑り
 続けようという気持ちが込め
 られています。

スキーは、自然を相手に年
 齢に合わせて自分のペースで
 楽しめるスポーツですが、い
 くら技術が上達してもこれで
 終わりということはありません
 ン。そして、アフタースキーも
 楽しみながら会員の親睦を図
 っています。今後は、スキー教
 室を開催して多くの方に参加
 していただき、地域社会との
 交流を深めていきたいと思っ
 ています。

笑顔でゲレンデに送り出し
 てくれる家族に感謝しなが
 ら、これからじっくり時間を
 かけて活動していこうと思っ
 ます。

問合せ

赤尾時夫さんへ

☎2957 8326